



信楽高校の陶芸部の皆さんが仕上げた陶器の器 (提供時はこれらの器を使用)



お話を伺った生徒の皆さん

甲南高校と信楽高校、地域の茶業者がコラボしたメニューが土山サーブエリアで販売されました。

甲南高校で育てた鶏肉を使用し、地元産のお茶を混ぜ込み、信楽高校で制作した器で提供する「お茶カツ定食」、生徒の皆さんがアイデアを出し、約6カ月の期間を要し開発されました。1日30食限定(合計500食)で販売され、あっという間に完売しました。

新しい やきものの価値 ②

信楽焼×お茶×
地元産ニワトリ!!
甲賀市ならではの「お茶カツ定食」

メニューを開発された甲南高校の皆さんにお話を聞きました。

3年 劉 承龍さん

美味しくなるために、ブライン液の調節など非常に困難で大変でした。土山茶とのコラボで甲賀をアピールできてうれしく思います。食べてくれた方が美味しく感じただけは嬉しいです。

3年 片木 まどかさん

完成するまで何度も作り直してとても大変でした。みんなで試行錯誤してやっとできたもので成功して嬉しいです。信楽高校の器に盛り、中に土山茶を入れ、甲賀らしさを出せたと思います。

今あるものから若者の新しいアイデアや発想で挑戦ができるまち、そつした取り組みがこれからの甲賀市を創り上げていくくれるものだと思います。

今回はどんなメニューが生まれるのか、今から楽しみです。

※肉を柔らかくするためのもの

新たな 出会いの場 ①

世界でひとつだけの作品で
やきものの良さに触れる
雲井小学校の「つつこプログラム」

県立陶芸の森では子どもたちに「土」に触れてもらい、ものを造ることの喜びや感動を通じて本物の芸術を体感できる学習「つつこプログラム」が行われています。

毎年、参加されている雲井小学校の児童に感想をお聞きました。

3年 大原 侑純さん

たぬきがテーマでした。あらかじめ紙に描いたものを形にしていきました。自分のアイデアをこうして形にできることが楽しいです。

6年 迫 慈さん

今年は土器がテーマだったので授業でも習った縄文式土器を造りました。自分なりの発想でオリジナルの令和土器を造り、楽しかったです。

5年 小谷 茉央さん

今年はシーサーがテーマでした。信楽焼は近所で陶芸教室をやっていたので小さい頃から知っていました。それぞれの個性が出て、自分だけの作品ができるのが楽しいです。



▲作品づくりを進める児童



▲「身近に有名な信楽焼があることが誇りです」と話す3人 (左から小谷さん、大原さん、迫さん)

※手前の作品はご本人のものではありません。

こうした活動を通じて、将来の甲賀市のことを考える若者が一人でも増えていけば良いですね。

新しいやきものの価値 と 新たな出会いの場

～「日本六古窯サミット2022 in 信楽」開催～

甲賀市では12年ぶり、3回目となる『日本六古窯サミット2022in信楽』が10月7日(金)から開催されます。六古窯サミットが開催される今回は、若者たちによるやきものへの関わりや、やきものを通したまちづくりへの取り組みをご紹介します。



▲受賞された3人(左から山本さん、小崎さん、植盛さん)
※手前の作品はそれぞれの受賞作



佳作
「アライグマな形」

3年 植盛 優菜さん

私は兵庫県からアート留学をしています。中学校で美術を選択していたのでここで陶芸を学びたいと思いました。

この作品はYouTubeでたまたま見ている動画で威嚇しているアライグマを見つけ、かわいいなと思い1か月くらいで制作・完成させました。



芸術賞
「ドラゴンな形」

2年 山本 悠冬さん

高校から陶芸を始めました。応募作品を考えるにあたり、歴代の先輩方の作品からイメージを膨らませました。2つの作品のように見えますが、2本の木に1匹のドラゴンが巻き付いている姿を表現しているので2つで1対の作品です。自分の作品が認められたことが一番うれしいです。



最優秀賞
「花器の形」

3年 小崎 灯子さん

埼玉県からアート留学をしています。当初から壺を造りたいと思っていて、この作品は観賞用の花器に仕上げました。最初は別の審査に出す予定でしたが、先生からやきもの甲子園のことを教えてもらったので応募してみました。

これまでの信楽焼のイメージではなく、青や黄色の釉薬で色付けしました。最優秀作品に選ばれたことが今も信じられません。将来は陶器などの作品づくりに関わる仕事がしたいです。

信楽焼といえばたぬきや器などが真っ先に思い浮かぶかもしれませんが、子どもたちが自由な発想力で制作するやきものが今後ますます楽しみです。

信楽で陶芸やデザインを学びたい!

アート留学についてはこちら▶



日本六古窯サミット
2022 in 信楽
詳しくは5ページ